



陸善務 通牒

副官より陸軍技術本部長、
首題ノ件二月十九日附陸技本甲第九一號上申
ノ通定ノラレハキニ付該兵器圖(概説共)一。一通
調製差出キ申付

陸善第三四四九號 昭和十二年六月廿一日

右兵器圖差出アリタル上左弁未付リセラレ度
件名一同 右

副官より別紙配賦箇所、

首題ノ件別紙圖面ノ通假制式トシテ制定セ
ラレタルニ付該兵器圖(概説共)配賦目録ノ
通送付ス

陸善第六七四三號

昭和十三年二月四日

昭和十三年三月七日

理品八枚概説送付

陸軍省
陸軍大臣
昭和十二年二月十九日
陸軍技術本部
久村種樹
陸軍

別紙添付圖面別送

陸技本甲第九一號

九四式六輪自動貨車假制式制定相成度件上申

昭和十二年二月十九日

陸軍技術本部長 久村種樹

陸軍大臣 杉山 元 殿

昭和九年十一月十三日陸普第六九二二號達ニ依ル首題兵器別紙圖面ノ通假制式制定相成度

追而審査經過ノ概要竝概説各二部添付ス





九四式六輪自動貨車審査經過ノ概要

一 審査起因ノ大要

陸軍自動車學校ニ於テ試作研究セシ輕便六輪自動貨車完成セシ
 テ以テ昭和九年十一月十六日隨書第六九二二號ヲ以テ之カ審査ヲ
 命セラル

二 審査經過ノ概要

試製品ニ付構造性能ノ適否ヲ調査シ且各部隊ニ於ケル實用ノ結果
 ニ鑑ミ一部ニ修正ヲ加ヘ其他屬品部品ハ規制各種車輛ト可及的ニ
 統一ヲ圖リタルモノニシテ茲ニ圖面ノ調製ヲ終リ審査ヲ完了セリ

陸軍

九四式六輪自動貨車概説

第一 總説

本車ハ一般貨物、人員ノ輸送用ニシテ重量形態兼ニ過大ナラス構造頑丈ニシテ九三式乗用車及九三式六輪乗用車ト幾多ノ共通部品ヲ有スルモノニシテ其主要諸元附表ノ如クニシテ外觀附圖ノ如シ

第二 構造機能ノ概要

一、發動機

乗用自動車ト同一ニシテ直立六氣筒水冷式ニシテ最大出力約六八馬力ヲ有ス

二、聯動機

單乾板式トス

三、變速機

前進四段後退一段ニシテ之ニ輪帶空氣唧筒ヲ附ス

四、終減速裝置

永轉螺式ニシテ其中心ニ差動機ヲ收容ス

五、制動機

手動及足動ノ二種ヲ有シ手動用ハ收縮式ニシテ變速機後方ニ於テ推進軸ニ作用シ足動用ハ擴張式ニシテ後方ノ四輪ニ作用ス

六車輪

三十四吋~~×~~六吋空氣入護謨輪帶ヲ使用ス

七運轉台

幌型ニシテ操縦手共三名著座シ得ル大サヲ有ス

八荷框

床面ハ空車ニテ地上高約一米二〇〇ニシテ面積約四・六平方米ヲ有シ之ニ三方開キノ扉ヲ附ス

本扉ハ開閉竝著脱可能ニシテ之ニ幌骨挿入シ綿布製幌ヲ冠裝ス

幌骨及幌モ亦著脱可能ニシテ分解シタル幌骨ハ運轉台上面ニ裝著ス

1870

九四式六輪自動貨車主要諸元表

| 區分 | | 諸元 |
|----------|------|-----|
| 自重 | 約三 | 噸 |
| 全長 | 約五 | 米 |
| 全幅 | 約一 | 米 |
| 全高 | 約二 | 米 |
| 最低地上高 | 約二 | 米 |
| 軸間距離 | 約二 | 米 |
| 軸間距離 | 約二 | 米 |
| 發動機標準回轉數 | 一五〇〇 | 分 |
| 出力 | 四三 | 馬力 |
| 最大回轉數 | 二八〇〇 | 分 |
| 最大速度 | 六〇 | 浬/時 |

三米三五〇 (前軸+中央軸)

前一米五〇〇
後一米四五〇

陸軍

| | |
|--------|-----------|
| 變速機 | 前進四段 後退一段 |
| 攀登傾斜 | 三分ノ一 |
| 徒涉水深 | 四〇〇耗 |
| 最小回轉半徑 | 六米五〇〇 |
| 携行燃料 | 一〇〇立 |

1872

陸技本甲第六八八號

九四式六輪自動貨車圖面送付ノ件通牒

昭和十三年十一月一日

陸軍技術本部副官 筒井三郎

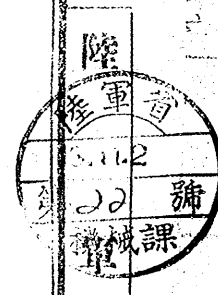
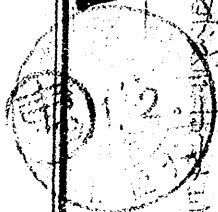
陸軍省副官 國分新七郎 殿

客年六月十一日附陸普第三四四九號通牒ニ係ル首題ノ圖面（參百五拾參枚）百貳拾通送付ス

追テ現品ハ陸普番號押捺ノ上機械課へ直送可致ニ付承知セラレ度

現品別送

陸軍省
技術部
第一課



（昭和十三年四月 東京 陸軍省）